生殖器の病気

CASE 18

- ☑ 元気、食欲がない

子宮蓄膿症（しきゅうちくのうしょう）

子宮蓄膿症は犬では一般的ですが、猫ではあまり多くありません。子宮に細菌が感染し、その結果として大量の膿汁が子宮内に貯留します。発熱や元気・食欲の低下が認められますが、犬よりは症状が出づらいとされています。一般的には8歳以上で認められる病気ですが、まれに若い猫でも発症するとされています。治療としては抗生物質の投与と外科手術が選択されます。

皮膚の病気

CASE 19

ノミ感染

野外に出入りする猫ではしばしばノミが感染します。ノミが数匹着いた程度ではほとんど症状はありませんが、ノミに対するアレルギー反応が起こることがあります。ノミアレルギー性皮膚炎では一般的に腰のあたりに病変があり、赤みやフケ、かさぶたなどが認められます。痒みが強いのも特徴です。ノミ取り用の目の細かい櫛で梳くとノミやノミの糞が検出できます。糞は黒いフケのようなものですが、水で濡らすとと赤黒く溶け出します。子猫にノミが大量に寄生した場合は、貧血を起こすこともあります。野外に出さないことが一番ですが、どうしても出てしまう場合、出てしまった場合には、首元に垂らすタイプの防除剤で駆除・予防することができます。

腫瘍の病気

CASE 20

- ☑ 吐く
- ☑ 下痢
- ☑ 咳、くしゃみ
- ☑ 呼吸が荒い
- ☑ 元気、食欲がない

リンパ腫（しゅ）

リンパ腫は猫で最も多い悪性腫瘍とされています。リンパ腫は全身様々な部位に発生しますが、最も多いのが胃や小腸、大腸といった消化管とされています。また、胸の中の心臓の前あたりにしこりを作る縦隔型、鼻にしこりを作る鼻腔型などが比較的多く認められます。血管やリンパ管の中に存在するリンパ球と呼ばれる白血球の一種が腫瘍化したもので、白血病に近い病気です。そのため、しこりを作っている場合でもそこだけの問題ではなく、全身に広がっていると考えられます。したがって、治療には主に抗がん剤が用いられます。症状は発生部位によって様々で、消化器型では嘔吐や下痢、体重減少が認められます。縦隔型では胸水が溜まることが多く、呼吸が苦しくなります。鼻腔型ではくしゃみや鼻水、鼻出血が一般的です。リンパ腫は8歳以上で多くなるとされていますが、2〜3歳くらいで発症することもあります。縦隔型は猫白血病ウイルスに関連したものがほとんどで、若い年齢での発生が多いとされています。猫免疫不全ウイルスは猫白血病ウイルスほど直接的ではありませんが、リンパ腫の発生率を高めるとされています。